

表紙／UNIQUE SHAPES「個性の形状」
大島 智美(しょうぶ学園・鹿児島市)

聴覚障害があり、自閉的傾向を持つ大島智美さん(34)は鹿児島市吉野町の知的障害者支援施設「しょうぶ学園」のデイサービスに通いながら、刺繍を中心とした作品を制作しています。大島さんの作品にはその時々で移り変わっていくこだわりがモチーフとして表現され、形状や色使いに美しさと高い独自性があります。2007年7月、同学園内に才能ある障害者の芸術家の発掘や情報の発信を目的に「Sギャラリー」がオープンし、その記念に彼女の個展UNIQUE SHAPES「個性の形状」が開催されました。表紙の作品はビーズ刺繍、上は刺繍による作品で、共に個展でも展示されたものです。

お問い合わせは、
社会福祉法人太陽会・知的障害者支援施設 しょうぶ学園
〒892-0871 鹿児島市吉野町5066番地
TEL 099(243)6639(代表)

【特集】

「バリアフリー」で
変わったこと、
変わってほしいこと

アイメイト鹿児島 会長
春田 ゆかりさん **PAGE 1**

NPO法人 デフNet.かごしま 理事長
沢田 利江さん **PAGE 2**

鹿児島県中途失聴者難聴者協会 会長
長井 登美子さん **PAGE 3**

ありば
ヒューマンドキュメント
西国領 俊子さん **PAGE 4**

ありば通心
竹内 直人さん **PAGE 6**

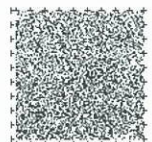
バリアフリー最前線
鹿児島市交通局のユートラムⅡ(鹿児島市)
きりしま国分山形屋(霧島市) **PAGE 7**

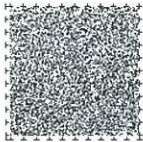
ハードルを越えて
田中 夏希さん **PAGE 8**

鹿児島県からのお知らせ
福祉のまちづくり施設整備資金
自殺対策について **PAGE 9**

「SPコード」について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を「SPコード」(音声コード)といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードのなかに、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。





春田さんのアイメイト、キャロリンはラブラドル・レトリバー、陽気で自由気ままなところもある9歳のお嬢さんです。

特集

「バリアフリー」で 変わったこと、 変わってほしいこと

●1970年代に建築用語として登場した「バリアフリー」は、1990年代に、みんなの常識になりました。常識になった今、いろいろな「バリア」を知る皆さんに、改めて「バリアフリー」をキーワードに自由に語っていただきました。

Q

「バリアフリー」で変わったことは？

十年前に比べて、はるかに出歩きやすくなっていると思います。

A

アイメイト鹿児島 会長

はるた
春田 ゆかりさん

「アイメイト鹿児島は、アイメイト(盲導犬)利用者の団体で、今年二十周年を迎えます。会長として私は四代目。キャロリンをもらって七年になります。整形外科に勤務してマツサージの仕事をしています。

キャロリンと一緒に歩けるから活動範囲が広がりました。スムーズに歩けるし、周りの人からも言われるんですけど、『あんた、ほんとうに眼が悪いの』と言われるくらいです。アイメイトをサポートするアイリングのボランティアの方たちとお友達になって、新しい出会いも増えました。

鹿児島島の街にしても、低床電車や低床バスの登場などでバリアがとれつつあるのかなと思いますけど、不十分な点も感じます。点字ブロックの上には駐車している自転車は本当に迷惑ですし、キャロリンと一緒に駄目と飲食店で拒否されて不愉快な思いになることもまだまだあるんです。

それでも、以前に比べれば、障害のある方々への理解が進んできたのではないかと思います。その理由の一つに、小学校、中学校、高校での総合的な学習があると思います。障害のある人子どもたちの交流が多くなってきて、子どもたちの興味津々な様子が伝わってきて、変化を感じます。

理想としては、鹿児島でももうちょっと盲導犬使用者が増えてくれたらいいな。それと周りの理解。『犬嫌い』の方が、バスなどで大騒ぎされると困ってしまいます。盲導犬をはじめ補助犬というのは特別な訓練を受けているわけですから、その辺を理解してくれたらなと思います。

『犬に声を掛けなくてください』という、私たちにまで声を掛けてはいけなと思われの方が多くて。私たちにはどんだん声を掛けてほしいです。先生とか官庁の方でも誤解されている方が多いんですよ。」



[写真上]春田さんとキャロリン
現在、アイメイト鹿児島には12名の会員がいます。また県内では13頭のアイメイト(盲導犬)が活躍しています。
[写真下]アイメイトとアイリングの仲間たちと

ボランティア団体「アイリング」

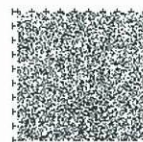
連絡先:「アイメイト鹿児島」をサポートするボランティア団体「アイリング」にご連絡ください。

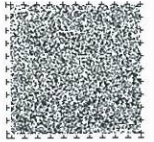
・アイリング: 〒892-0816 鹿児島市山下町15-1 鹿児島市民福祉プラザ内
ボランティアセンター メールボックス59番 アイリング

URL: <http://ai-ring.org/> メール: info@ai-ring.org

アイリング

検索





Q

「バリア」をなくす方法は？

やはり実際に付き合ひ、お互いを知ることだと思ひます。

A

NPO法人デフNet. かがしほ 理事長

沢田利江さん

「私たちの活動は、聴覚障害関係情報紙『Deaf 倶楽部 Kagoshima』の創刊から始まって今年で十年。二年前にNPO法人化して、現在八つの事業を行っています。今年も、重複障害者が働くおまんじゅうの店『ぶどうの木』を始めました。聴覚のほかに障害のある重複障害者は働く場所が少ないので、その支援になればと。NPOが持つ力を使って、障害者が社会に触れる窓口、パイプを作っていきたいですね。

『ぶどうの木』のお客様で、スタッフの耳が聞こえないことに驚いて慌てる方がいます。本人に『どうしたらいい』と尋ねればいいのですが、目をそらして遠慮してしまう。こんなとき、即座にスマートな対応や支援ができる社会になってほしい。

そういう意味で、今の学校の総合的な学習はいいと思う。『聞こえない人や目の見えない人のことを知りましたよ』みたいな時間がある。以前は全然なかったですから。将来に期待が持てますよね。十年後かな。

公共交通機関の電光掲示板や、公共の場所に手話通訳がつくなど、ハード面ではバリアフリーは広まってきたし、ハード面は即効性のある方向で変わってほしいと思うけど、一般の人が、バリアフリーということを本心に心から思っているかどうかは、まだはつきり見えてきてない

思ひます。

それでも、バリアフリーの解決法は、やっぱり諦めないで地道に続けることかな。こちらの発信に応じて周りも変わってほしいと思うのね。障害者だけでもハートは同じ、喜怒哀楽も全部同じ、違っていても『何をしたらいいのかな』と気軽にお互いに聞ける、言い合える、それを肌身にかけてお互いを『知ること』が大事だと思う。だって、みんな生きているのが楽しいと思う社会にしたいじゃないですか。」



[写真右] 沢田利江さん(右)と手話通訳をしてくださった永田詔子(ながたしよこ)さん。

「相手が障害者と身構えるのではなく、だから何、同じ人間じゃないと思えば、心のバリアもなくなるのかな」

[写真左] 加治木まんじゅう&クレープ『ぶどうの木』は聴覚障害者が運営。ですから、一見無愛想に見えますが、心からお客様をお待ちしています。注文は注文票に書いてください。もちろん手話も歓迎です。

NPO法人デフNet. かがしほ

住所：〒890-0015 鹿児島市草牟田町5-22 大和通信ビル1F
Tel：099(225)0615 Fax：099(201)3192
URL：http://www.deaf-net.org/ メール：mail@deaf-net.org

デフNet

検索

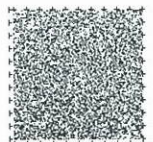
子どもたちとの交流がバリアフリーをすすめる

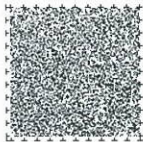
アイメイト鹿児島市の春田さんやデフNet. かがしほの沢田さんのお話で、子どもたちとの交流が増えたことに、バリアフリーの進展と将来への期待を感じておられる様子が印象的だった。

平成10年の『学習指導要領』の改正で(実施は平成12年から段階的に)、新しく「総合的な学習の時間」が設けられ「国際理解、情報・環境、福祉・健康等の横断的・総合的な課題」について学習活動を行うことや、「学校行事」の項目では「幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験等を充実するよう工夫すること」が明記された。平成12年以前に比べて、障害のある人と小中高生との交流が増えたことを考えると、この『学習指導要領』の改正が果たした役割は大きい。この交流が、未来のバリアフリー社会の基礎になることを期待したい。



[写真] 『Deaf 倶楽部 Kagoshima』 十周年記念号





特集

「バリアフリー」で 変わったこと、 変わってほしいこと

「全国初の難聴者協会が設立されたのは実は鹿児島です。一九六五(昭和四十)年設立。でも、長続きしなくて、一九九一(平成三)年に改めて今の協会が設立されました。長続きしなかったのは理由があつて、難聴者同士のコミュニケーションが難しいという面があつたからだと思います。」

一般の方は、聴覚障害者⇨手話という考え方をしますでしょ。ろう者(注1)の方は手話ですぐ会話でき、仲間や団体をつくりやすい。でも、中途失聴者・難聴者は、人生の途中で耳が聞こえなくなつたので、手話は不得意。筆談では、活発な交流にならない。また、私たちはしゃべれるので、聞こえないことを周りに理解されずに誤解を招いて、世間から引きこもってしまうがちです。

でも、要約筆記の方の支援があると、分かんんです。講演などで、要約筆記の方がOHPで同時に書いてくださると、本当によく理解できる。うれしいですよ。最近、公共の場で手話通訳の方がつく場所はよく見られます。でも、わたしたち中途失聴者・難聴者に必要なのは要約筆記なんです。こんな要求を出すのはここ二、三年のことです。今までバリアフリーの流れからつまはじきされたような疎外感を感じていたので。鹿児島では、要約筆記サークルやまびこの池端さんのようなボランティアの方はまだまだ少ない



[写真右]長井登美子さん(右)と要約筆記者の池端てるみさん

[写真上]要約筆記者がつくつと、中途失聴者・難聴者同士でも会話がスムーズに進行する。



(注1)

聴覚障害者は「ろう者」、「難聴者」、「中途失聴者」に大きく区分されます。「ろう者」とは3~4歳の音声言語獲得以前に高度難聴が生じた人のこと。「難聴者」とは補聴器を用いて音声言語によるコミュニケーションがどうか可能な人のこと。「中途失聴者」とは音声言語獲得以後に高度難聴が生じた人のこと。

ですし、講演やイベントなどの場に要約筆記がつかうようになってくれたらうれしいですね。中途失聴者・難聴者の会議などには要約筆記者が必要なんです。

笑い話みたいですが、私は前、本当に暗かった。でも、要約筆記の人たちのおかげで、明るく積極的になれました。本当に良かったと思います。だから、家に引きこもりがちな中途失聴者・難聴者が外に出やすい環境をつくっていききたい。それには、もつと要約筆記が必要なのです。」

Q

バリアフリーで感じることは?

世間一般のバリアフリーからつまはじきされているような疎外感を感じます。

A

鹿児島県中途失聴者難聴者協会 会長 ながい とみこ 長井 登美子 さん

鹿児島県中途失聴者難聴者協会

連絡先: 〒890-0021 鹿児島市小野一丁目1番1号ハートピアかごしま3F
Fax : 099(229)6516

耳の不自由な方は
意識しますので
お申し出ください



聞こえが不自由なことを表す
「耳マーク」です

耳マークの利用例

耳マークをご存じですか?

全日本難聴者・中途失聴者団体連合会では、耳が不自由であることを表示するシンボルとして「耳マーク」の普及に努めています。聴覚障害は外見からは分かりません。耳マークは自分から聴覚障害であることを知らせるマークです。また自治体、病院、銀行などに耳マークの表示があれば、聴覚障害者に筆談などで対応ができることを表します。

○耳マークの使い方など詳しい情報は全難聴のホームページで
社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
ホームページ
<http://www.zennancho.or.jp/index.html>

全難聴

検索

要約筆記や手話通訳に関心のある方へ

鹿児島県視聴覚障害者情報センターでは、手話通訳者養成講座や要約筆記奉仕員養成講習会を開いています。詳しい内容は鹿児島県視聴覚障害者情報センターまでお問い合わせください。

鹿児島県視聴覚障害者情報センター
〒890-0021 鹿児島市小野一丁目1番1号
ハートピアかごしま3F
TEL:099(220)5896
FAX:099(229)3001